

平成23年度 校内研修実施計画

宮里小学校校内研推進委員会

1 研究主題

確かな学力を支える言語能力の育成

— 各教科、領域等における言語活動を通して(三年次) —

2 研究主題設定の理由

言語活動の充実は、今回の学習指導要領の改訂において各教科、領域等を貫く重要な改善の視点である。言語は、各教科等で行われる知的活動の基盤であり、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもある。確かな学力の基盤となる言語能力を育成し、習得、活用、探求の授業に生かすことで学力の向上を図り、児童に「生きる力」を育むことが重要である。

本校においては、全国学力・学習状況調査や沖縄県学力到達度調査の結果から基礎学力の定着やそれらの知識を活用し自分の考えを説明したり表現したりする力の育成が課題となっている。

一・二年次を通し研究主題を『確かな学力を支える言語能力の育成—各教科、領域等における言語活動を通して—』とし、各教科、領域等の授業において児童の言語能力の育成を図るための指導方法の工夫、また各教科、領域等の特性に応じた言語活動のあり方等、効果的な指導方法を追求した。

その結果、「言語活動を取り入れた授業の工夫や他教科との関連を意識した授業作り」「教材教具・場の工夫による児童の言語に対する意識の向上や学び合い」「言語環境の整備」等の一応の成果は得られた。しかし、「書く活動における言葉の精選・向上」「系統性を意識した基本話型や対話のある言語活動をさせるための手立て」「言語活動を高めるための場の工夫や教材研究・言語環境の充実」等の課題が残った。

そこで、本年度は、これまでの研究をさらに継続、発展させ各教科、領域等における「さらなる言語活動の充実」や「確かな学力を支える言語能力」の具現化を目指し、指導の日常化、習慣化を図りたい。そのためには、二年間の研究のつながりを意識した「言語環境や言語活動の質的な充実」を追求し、授業実践を展開していきたい。そうすることにより、本校の課題である基礎学力の定着や言語を活用する力の向上につながり、確かな学力を支える言語能力の育成を図ることができると考え、本主題を設定した。

3 研究目標

確かな学力を支える言語能力を育むために、各教科・領域等において、言語活動を取り入れた授業の工夫・改善をし、授業実践を通し検証する。

4 研究仮説

各教科・領域等において、児童の言語活動を工夫・改善し充実を図ることにより言語能力を高めることができるであろう。

5 研究主題のとらえ方

(1) 「確かな学力」とは

文部科学省が示す「生きる力」の構成要素である「確かな学力」は、これまでの「基礎的・基本的な知識・技能」に加え「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する」資質や能力及び「学ぶ意欲」をも含んでいる。これまでの狭義の学力「基礎学力」の定着から、広義の学力「確かな学力」の向上を構想した取り組みが必要であるとしている。

また、学力向上主要施策「夢・にぬふぁ星プランⅡ」では、確かな学力を

- | | |
|----------------------|-------------------|
| ①基本的・基礎的な知識・技能 | ②必要な思考力・判断力・表現力等 |
| ③主体的に学習に取り組む態度（学習意欲） | ④学習を支える力（学習規律の徹底） |

と定義づけている。

本校の研究主題の「確かな学力」の向上を図るためにも「基礎的・基本的な知識・技能」を各教科の授業のみならず、日常生活においても意図的に活用する活動を充実させ「基礎学力の定着」から「確かな学力」の向上を意識した指導を展開する必要がある。

(2) 「言語能力」とは

小学校指導要領解説(国語編)には、国語科の目標として国語を「適切に表現」し「正確に理解する」能力の育成を国語能力の根幹としている。国語を「適切に表現」する能力とは、国語を適切に使う能力と国語を使って内容や事柄を適切に表現する能力の両面の内容を含んでいる。国語を「正確に理解」する能力とは、国語の使い方を正確に理解する能力と国語で表現された内容や事柄を正確に理解する能力との両面の内容を含んでいる。このような言語能力は、日常生活に生きて働くよう、一人一人の児童が言語の主體的な使い手として、相手、目的や意図、場面や状況などに応じて適切に表現したり正確に理解したりする力として育成することが大切であるとしている。

つまり、国語科以外でも自分の考えを相手に伝える力が必要であり、国語科で培う「言語能力」とは、「言語」を正しく理解し、「学習や日常生活で使える言葉」を増やすことである。そのため、児童の学習や日常生活で役立つ言語能力が定着するように学習指導の工夫・改善を行う必要がある。

(3) 「言語活動」とは

小学校指導要領解説(総則編)では、「確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習活動、これらの活用を図る学習活動及び総合的な学習の時間を中心とした探求活動といった学習の流れを重視し、基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成をバランス良く図ること」としている。つまり、知識・技能を習得し、それを活用する場があり、また、興味のある課題を追究し活動すると、知識・技能の必要性が実感され、基礎・基本に立ち戻るという学習効果が期待されるからである。

本校でも習得した力を探究する力に結びつける指導の工夫を考え、より良く課題を追究させるために言語活動を重視すると共に、以下の学習活動を取り入れた指導の展開を図る。

資料を活用したり、課題を解決したりする学習活動	既習事項を生かし自分の考えをまとめたり、発表したりする学習活動
① 読み取る・調べる ② 記録する ③ 鑑賞・観察する ④ 要約する ⑤ 比較・分類する ⑥ 関連づけて考える ⑦ 推理しながら課題を解決する	① 話し合う ② 友達の意見のよいところを見つけながら聞く ③ 級友の意見を批判的に聞く ④ 資料を作成する ⑤ 説明する ⑥ 発表・討論する ⑦ 学習活動を振り返る

6 めざす児童像

研究主題の「確かな学力」「言語能力」「言語活動」を各学年の児童の発達段階に応じて、めざす児童像として具体的に設定し、研究主題への意識化を図る。

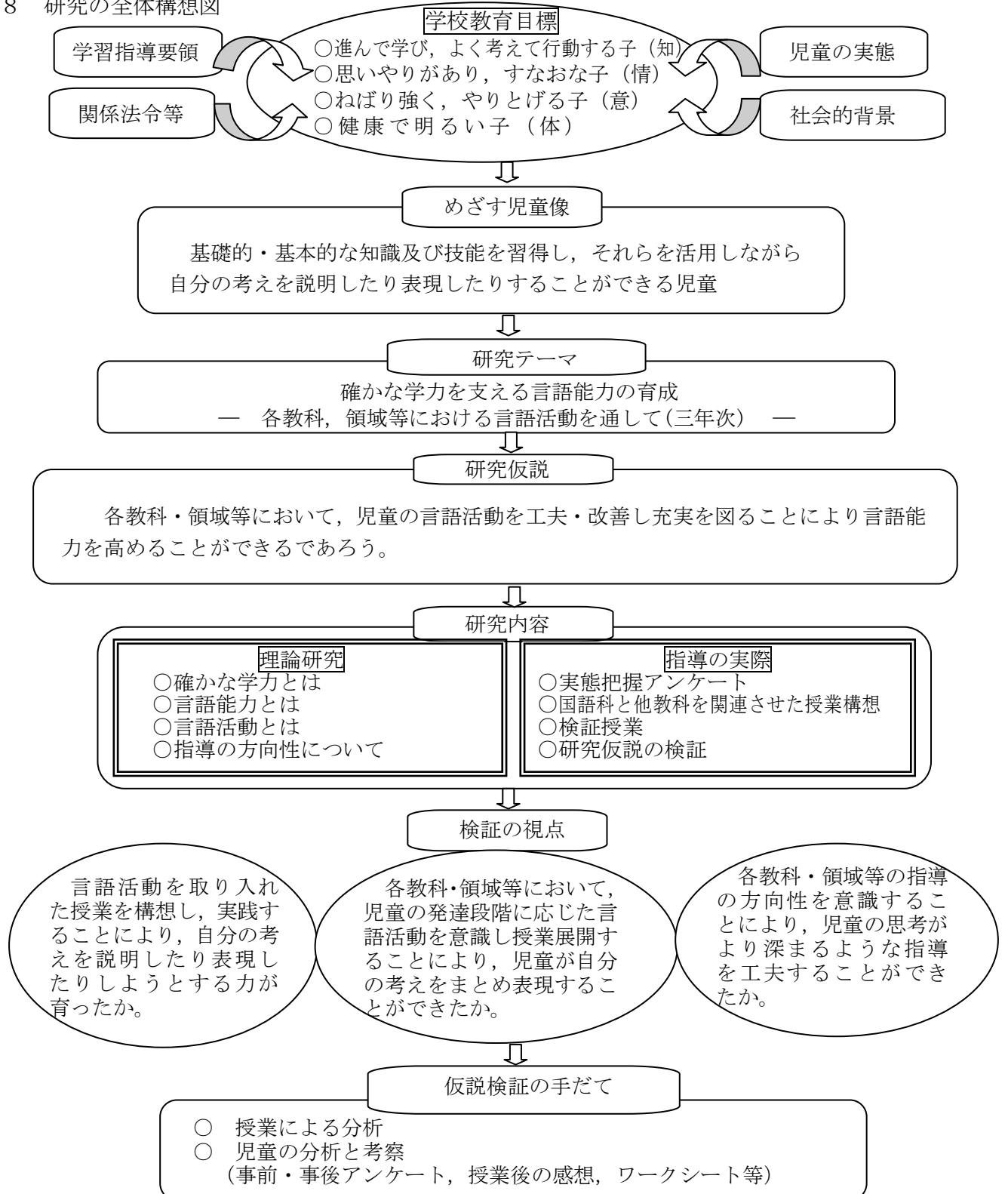
本校のめざす児童像	基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、それらを活用しながら自分の考えを説明したり表現したりすることができる児童
6 学年	基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、それらを活用しながら自分の思いや考えを目的や場に応じて適切に表現したり、伝え合ったりすることができる児童
5 学年	基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、それらを活用しながら自分の思いや考えを意図がわかるように工夫して表現したり、伝え合ったりすることができる児童
4 学年	基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、それらを活用しながら自分の思いや考えを筋道を立てて伝えたり、相手の話をしっかり聴いたりすることができる児童
3 学年	基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、それらを活用しながら自分の思いや考えを相手や目的に応じて伝えたり、相手の話をしっかり聴いたりすることができる児童
2 学年	基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、それらを活用しながら自分の思いを順序よく相手にわかるように伝えたり、相手の話をしっかり聞いたりすることができる児童
1 学年	基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、それらを活用しながら自分の思いをすすんで書いたり、話したり、聞いたりすることができる児童

7 研究内容

授業研究及び日々の授業実践を通して次の内容を研究する。

- (1) 言語能力を育む年間を通した具体的な指導（日常化）および言語環境の整備
- (2) 国語と他教科における言語活動の効果的な関連
 - 思考を深めるための書く・話す・聞く・話し合う活動の工夫
 - 板書・掲示の工夫
 - 互いの考えを高めるための話し合いの工夫
 - 学習形態・場の工夫
- (3) 言語活動の質的な充実
 - 学習活動および学習内容と「言語」との関連づけ
 - 個に生きる評価の工夫

8 研究の全体構想図

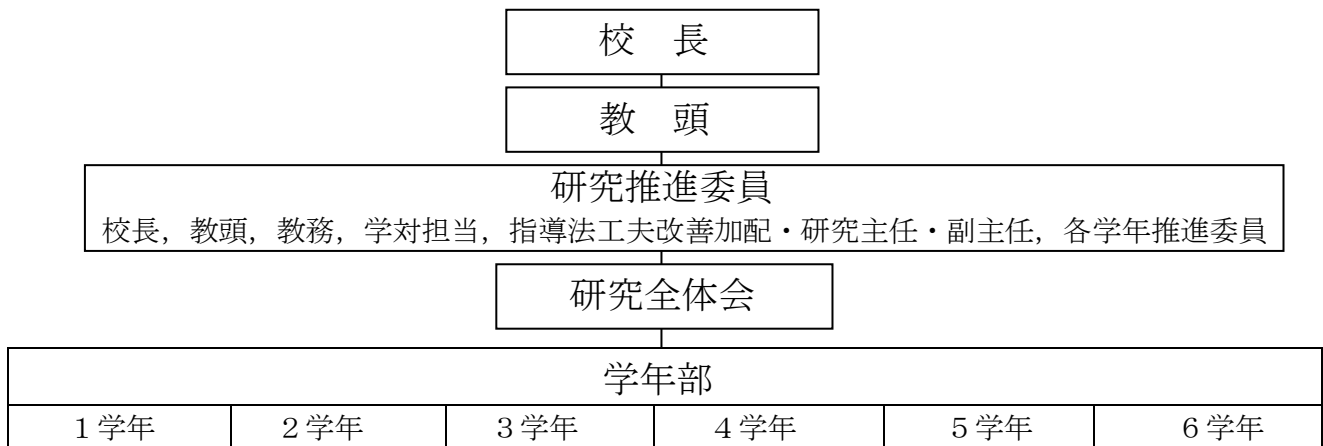


9 研究方法

- (1) 研究時間の確保を図るため、研究日の位置付けを明確にする。
 - 毎月第1・3金曜日を定例の研究日とする。
 - 毎月第2火曜日に研究推進委員会を開く。
- (2) 研究主題を具現化するために、実態を把握し、仮説を立てて検証授業を行い、授業研究会で成果と課題の共有化を図る（全学年で検証授業を実施する）。
- (3) 沖縄県立総合教育センターの指導主事を招聘し研究を進める。
- (4) 沖縄県立総合教育センターと連携を図り、出前講座や出前授業を活用し、教師の指導力向上を図る。
- (5) 校内研修の日常化を図り、自分自身の授業の創造を目指す。
- (6) 研究を深めそれらを共有化するために、研究集録を作成する。

10 研究組織

(1) 組織図



(2) 役割分担と活動内容

役割	活動内容
校長・教頭	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研修の総括 ○ 校内研修の指導助言 ○ 渉外, 研修費関係
研究主任	○ 研究計画・立案・研究の推進・運営・調整
研究副主任	○ 研究主任の補佐, 代理
学対担当 指導法工夫改善加配 推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究の運営・推進 ○ 研究授業・授業研究会の運営および調整 ○ 各学年の推進・連絡調整
研究全体会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体的協議・決議や理論・実技研修 ○ 全体で授業参観し, 授業改善の方策を探る ○ 研究授業・授業研究会
学年部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年部の研究, 推進, 教材研究 ○ 指導案作成 ○ 授業研究会の実施・評価

11 研修計画

回	月	日	曜日	形態	連	内 容	研究	修養	時間	推進委員会
1	4	4	月	全体	○	出前講座①（豊かな学級経営の実践）		○	90	
2	4	5	火	全体		研究計画（主題・副題，研究内容の確認）	○		10	
3	4	22	金	全体	○	出前講座②（言語活動の充実を図る授業作り）	○		90	4/12
4	5	6	金	学年	○	出前講座③学年研（学年の研究の方向性）			60	
5	5	27	金	学年	○	出前講座④「家庭学習の定着を図る方策・取り組み」		○	90	
6	6	3	金	学年	△	教材研究・指導案作成			35	
	6	12	日	全体	○	【日曜参観】「家庭学習の定着を図る方策・取り組み」			—	6/7
7	6	22	水	学年	○	検証授業①（6 学年）		○	—	
8	7	1	金	全体		ネタ紹介①（授業実践・学級経営等）	○		35	
9	7	15	金	学年	△	教材研究・指導案作成			90	7/12
						<夏季研修>				
10	7	21	木	全体	○	出前講座⑤「小学校外国語の授業実践」		○		
11	7	22	金	全体	○	出前講座⑥「記憶につながるノートづくり」		○		
12	7	25	月	全体	○	出前講座⑦「特別支援を必要とする児童への指導・支援」 ネタ紹介②（授業実践・学級経営等）		○		
13	7	26	火	全体	○	出前講座⑧「すぐ活用できる ICT 教育研修」		○		
14	9	2	金	学年	△	教材研究・指導案作成			35	
15	9	16	金	全体	○	検証授業②（3 学年）			—	9/6
16	9	30	金	学年	○	出前講座⑨（各学年）			90	
17	10	14	金	学年	△	教材研究・指導案作成		○	○	10/11
18	11	11	金	全体	○	検証授業③（1 学年）			—	
19	12	2	金	学年	△	教材研究・指導案作成	○		35	11/15
20	12	9	金	学年		市指定実践報告会準備			90	12/6
	12	16	金	全体	○	市指定実践報告会 検証授業④（2 学年・4 学年・5 学年）	○		—	
21	1	6	金	学年		研究集録のまとめ		○	35	
22	1	20	金	全体		研究集録のまとめ	○		90	1/17
23	2	3	金	学年		研究の振り返り（成果と課題）	○		35	
	2	17	金	学年		実践報告会	○		—	2/7
24	2	24	金	学年		研究の振り返り 次年度計画①（主題・副題）	○		90	
25	3	9	金	全体		次年度計画②（主題設定の理由・研修計画）	○		90	

※連の項目は沖縄県立総合教育センターとの連携を指す。○印の講座及び4回の検証授業についての主事招聘は、すでに連絡済み。△印は各学年でセンターと連携して研修するか、または、学年で対応するか検討する。

※各学年からの出前授業および出前講座については、学年から要請があり次第、校内研担当がセンターへ連絡・調整。後日、調整後、学年で対応する。

※夏休み以降（9月～3月）の主事要請及び講座等については、各学年で夏休みに計画しまとめて要請する。

12 共通実践事項

各学年の系統性を意識しながら、児童が互いの思いや考えを伝え合うための言語活動をよりスムーズに行えるよう言語環境作りに努める。また、児童の言語に対する意識や語彙力の向上、定着を図るため以下の取り組みを年間を通し日常的に実践する。

(1) 言語能力を高める日常的な取り組みとして

	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
言語環境作り	○ 基本的な話型指導 (私は～です) ○ 声のものさし ○ 話の聞き方・話し方 ○ 朝の会や帰りの会の司会 ○ 挨拶奨励の掲示	○ 基本話型の表示 ○ 声のものさし ○ 話の聞き方・話し方 ○ 漢字表 ○ 月毎の詩の掲示	○ 基本話型の表示 ○ 声のものさし ○ 話の聞き方・話し方 ○ 群読 ○ 進出漢字の掲示 ○ 月毎の詩の掲示	○ 基本話型の表示 ○ 声のものさし ○ 話の聞き方・話し方 ○ 辞書引きの習慣化、 ○ 朝の会（1分間スピーチ） ○ 月毎の詩の掲示	○ 基本話型の表示 ○ 声のものさし ○ 話の聞き方・話し方 ○ 掲示・表示の工夫	○ 基本話型の表示 ○ 声のものさし ○ 話の聞き方・話し方 ○ 掲示・表示の工夫
語彙力の向上	○ 日記指導 ○ 読書指導 ○ 本の読み聞かせ ○ 朝の会での1分間スピーチ	○ 国語辞典の活用 ○ 読書指導 ○ 日記 ○ 音読 ○ 言葉の意味の書き換え	○ 朝の1分間スピーチ ○ ことわざ ○ 群読 ○ 国語辞典の活用 ○ 読書指導	○ 漢字の本の活用(小学生で学習する1006字) ○ 国語辞典の活用 ○ ことわざ ○ 読書指導	○ 国語辞典・漢字辞典の活用 ○ 読書指導 ○ 音読	○ 国語辞典・漢字辞典の活用 ○ 作文指導の強化 ○ 読書指導
学習形態の場の工夫	○ 伝え合う場の設定(ペア学習→グループ学習→全体(2学期頃から)) ○ 朝の会(1分間スピーチ)	○ ペア学習 ○ 広場を活用してのポスターセッション	○ ペア学習 ○ グループ学習 ○ 全体	○ 個人(書く)→ペア→グループ→全体→個人(書く)	○ ペア→グループ→全体	○ 発表し合う場の工夫(意見の交流) ○ 話し合い活動(ディベートができる課題を与え、意見を出し合う)
書くこと	○ 日記指導 ○ ノート指導(マスからはみ出さずに丁寧に書く。)	○ 日記指導(友達に知らせたいことや五感を使い、順序よく相手にわかりやすく書く。)	○ 日記指導(題をきめて) ○ 作文 ○ 新聞作り	○ 日記指導(漢字○個) ○ ノート指導(書く習慣作り) ○ 付箋紙の活用 ○ 新聞作り	○ 日記指導 ○ 付箋紙の活用 ○ 新聞作り	○ 感想・記録(朝会・行事後) ○ 日記の活用
聞くこと	○ 聞き方の指導(正しい姿勢で最後まで話を聞く)	○ 聞き方の指導(①大事なことは落とさずに聞く。②友達の説明を聞いてわからないことを聞き返す。)	○ 学習規律(話し手の方を見て聞く・話がおわるまで聞く)	○ 聞き取りノート ・メモする ・短くまとめる ・自分の考えを書く	○ 自分の意見と比べながら聞く	○ 感想の記入(講話等) ○ スピーチタイム
話すこと	○ 声のものさしの活用 ○ 基本的な話型の指導 ○ 音読の奨励	○ 話し方の指導(5Wを意識させる・順序を考えてわかりやすく) ○ 音読の奨励	○ 各教科にわたって ○ 1分間スピーチ ○ 国語の教科との関連	○ 話型指導 ○ 1分間スピーチ ○ 音読の奨励	○ 話型指導 ○ 5Wを意識した話し方	○ スピーチタイム

(3) 言語に関する（児童につけたい力）指標【小学校指導要領解説（国語編）】

	低 学 年		中 学 年		高 学 年	
	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
話すこと	<ul style="list-style-type: none"> ○事柄の順序を考えながら，相手に分かるように話すことができる。 ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて話すことができる。 ○はっきりした発音で話すことができる。（姿勢・口形） 	<ul style="list-style-type: none"> ○理由や例を挙げながら筋道を立てて話すことができる。 ○相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。 ○相手を見たり，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意したりして話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事柄が明確に伝わるように話の組立てを工夫しながら，話すことができる。 ○目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。 ○共通語と方言の違いを理解し，また，必要に応じて共通語で話すこと。 			
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○大事な事を落とさないようにしながら，興味をもって聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話の中心に気を付けて聞き，質問したり感想を述べたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し手の意図をとらえながら聞き，自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができる。 			
話し合うこと	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの話を集中して聞き，話題に沿って話し合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの考えの共通点や相違点を考え司会や提案などの役割を果たしながら，進行に沿って話し合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの立場や意図をはっきりさせながら，計画的に話し合うことができる。 			
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○経験したことや想像したことなどから書くことを決め，書こうとする題材に必要な事柄を集めることができる。 ○自分の考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。 ○語と語や文と文との続き方に注意しながら，つながりのある文や文章を書くことができる。 ○文章を読み返す習慣をつけるとともに，間違いなどに気付き，正すことができる。 ○書いたものを読み合い，良いところを見つけて感想を伝えあうことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関心のあることなどから書くことを決め，相手や目的に応じて，書く上で必要な事柄を調べることができる。 ○文章全体における段落の役割を理解し，自分の考えが明確になるように，段落相互の関係などに注意して文章を構成することができる。 ○書こうとするものの中心を明確にし，目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くことができる。 ○文章の敬体と常態との違いに注意しながら書くことができる。 ○文章の間違いを正したり，よりよい表現に書き直したりすることができる。 ○書いたものを発表し合い，書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○考えたことなどから書くことを決め，目的や意図に応じて，書く事柄を収集し，全体を見通して事柄を整理することができる。 ○自分の考えを明確に表現するため，文章全体の効果を考えることができる。 ○事実と感想，意見などを区別するとともに，目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。 ○引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書くことができる。 ○表現の効果などについて確かめたり工夫したりすることができる。 ○書いたものを発表し合い，表現の仕方に着目して助言し合うことができる。 			
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 ○楽しんだり知識を得たりするために，本や文章を選んで読むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○内容の中心や場面の様子がよくわかるように音読すること。 ○目的に応じて，いろいろな本や文章を選んで読むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。 ○目的に応じて複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。 			

資料2【指導案形式について】

<表紙>

(本校) 研究テーマ (本校) 目指す児童像 学年の目指す児童像 学年研究仮説

第○学年 ○○科 学習指導案

平成23年 ○月○日 (○) ○校時
沖縄市立宮里小学校 第○学年○組
男子 ○名, 女子 ○名, 計 ○名
授業者 ○○ ○○
共同研究者 ○○ ○○ ○○ ○○
○○ ○○ ○○ ○○

<研究テーマとのかかわり>

- 1 単元名 (題材名)
- 2 単元 (題材) の目標
- 3 単元 (題材) について
 - (1) 教材観
 - (2) 児童観
 - (3) 指導観
- 4 本単元 (題材) における研究テーマに迫る具体的な手立て
- 5 単元 (題材) の目標と評価規準
- 6 関連事項
- 7 指導計画
- 8 本時の指導 (/)
 - (1) ねらい
 - (2) 授業仮説
 - (3) 準備する物
 - (4) 展開
 - (5) 評価
 - (6) 板書計画
 - (7) 場の設定 (教室環境・座席の配置)

<資料>

事前アンケート (実態アンケート・児童の意識アンケート等) ワークシート

※ 指導案の形式項目については、学年で検討し必要に応じて設定する。